

親子でことばをはぐくむ

～日々の生活でできること～



ことばの発達は、子どもの育ちを見る中で気になることのひとつだと思います。

私たち言語聴覚士は、ことばの発達支援に携わっています。

今回は私たちが子どもへの“ことばかけ”で意識しているポイントの中から3つをご紹介します。

ぜひ、日々の家庭での関わりの参考にしてみてください。

1, 子どもが言うべきことばや行動のモデルを示す



場面に応じたことばを表現できない場合は、勝手に取る、お友達に手が出るなどの行動で表したり、怒ったり、諦めたりすることがあります。その時に必要なことばを代弁することで、言うべきことばを学ぶ機会につながります。

2、子どもの行動や気持ちを言語化する



赤い車 走ってるね

車 楽しいね

積み木のせよう！

おうちつくろうね



よいしょ！

子どもの行動や気持ちにことばを添えることで、漠然とした行動やその気持ちに意味が加わります。食事、手洗い、着替えなどの生活動作に沿ったことばかけも積極的に行うと良いでしょう。

3、子どものことばを広げて返す、 言い誤りを正しく言い直して聞かせる

ぶたさん

そうだね、ぶたさんがいたね



パパが言ったんだね

パパに言ったんだよ



子どもが単語で表現をしたら2語文や3語文に広げて返してあげましょう。自分の知らない表現を学ぶ機会になります。語彙や助詞、活用などの言い誤りは、大人が内容を共感しながら言い直して聞かせることで、正しい表現を学んでいきます。

当院の言語聴覚療法では、ことばやコミュニケーションの発達について、発達の見立てや指導、助言などを行っています。
相談をご希望の場合は、当院小児科へお問い合わせ下さい。